

在宅医療推進

北関東ブロックフォーラム in 栃木

テーマ 地域包括ケアシステムと病院医療

～人生の最終段階におけるチームケア～

大会長 前原 操 栃木県医師会 副会長

参加費
無料
事前申込要

日時 平成29年 10月29日（日）13:00～16:45（12:30開場）

会場 獨協医科大学 創立30周年記念館 関湊記念ホール（400名）
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880 Tel 0282-86-1111

特別講演 座長：趙 達来

「口からたべられなくなったらどうしますか？」

石飛 幸三氏 特別養護老人ホーム 芦花ホーム

1935年 広島県生まれ。慶應義塾大学医学部卒。

外科学教室に入局後、1970年ドイツのフェルディナント・ザウアーブルッフ記念病院、東京都済生会中央病院で血管外科医として勤務した。2005年12月より現職。診療の傍ら、講演や執筆、メディアを通して、老衰末期の看取りのあり方についての啓発に尽力している。

著書に『「平穏死」のすすめ 口から食べられなくなったらどうしますか』（講談社）、『「平穏死」という選択』（幻冬舎ルネッサンス新書）など多数。

基調講演 座長：佐々木 将人

「病院に求められる地域包括ケアシステムとの連携」

高山 義浩氏 沖縄県立中部病院感染症内科・在宅ケア科医長

1970年 福岡県生まれ。東京大学医学部保健学科卒、山口大学医学部医学科卒。

厚生労働省においては、パンデミックに対応する医療提供体制の構築に取り組みただけでなく、高齢化を含めた日本の社会構造の変化に対応する地域医療構想の策定支援にも従事した。

臨床では、国立病院九州医療センター、九州大学病院、佐久総合病院などを経て、現在は、沖縄県立中部病院において、急性期病院と地域包括ケアシステムの連携推進に取り組まれている。

著書に、『地域医療と暮らしのゆくえ 超高齢社会をともに生きる』（医学書院、2016年）など多数。

シンポジウム 司会：太田 秀樹 コメンテーター：石飛 幸三 高山 義浩

「住み慣れた地域で最期まで～人生の最終段階におけるチームケア～」

シンポジスト：鶴岡優子（医師） 三木次郎（歯科医師）

山下幸子（訪問看護ステーション管理者） 他

主催 在宅医療推進北関東ブロックフォーラム実行委員会

共催 公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団

後援 栃木県 栃木県医師会 栃木県訪問看護ステーション協議会 栃木県歯科医師会 栃木県薬剤師会

【お問い合わせ】在宅医療推進北関東ブロックフォーラム実行委員会 事務局 岩本佳代子

〒323-0023 栃木県小山市中央町2-10-18-101 医療法人アスミス内 Tel: 0285-38-6361 Fax: 0285-38-6362

※このフォーラムは公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています。